

日本の首都は札幌だ！

首都圏バックアップ機能と市電ループ化による 札幌市都市部の活性化

北海道工学部環境社会工学科
早川真未 恒川和久
安保修人 村上陵
中川修平 小澤春貴
作中祐介 宮永晋平

目的

- ・若者を札幌に呼び込む！
- ・首都圏バックアップ機能を札幌に！

背景

現在、日本の首都である東京には事業所数は60万事業所があり、全国平均の5倍もの事業所数で、東京に企業が集中している。しかし、東京には高いリスクが潜んでいる。スイスの保険会社の調査によると東京は「世界で自然災害が1番危険な都市」と言われるように地震や洪水、津波のリスクが高い。自然災害が起きた場合には多くの企業が被害にあい、日本の機能が麻痺状態となる危険性がある。

一方、札幌は自然災害のリスクが低い。日本の他の主要都市に比べ、地震や台風、落雷の発生数は少なく、自然災害に安全な都市である。

また、札幌市の人口は増え続けてきたが、H27年をピークに減少傾向が見込まれている。さらに人口減少の中で、少子高齢化がさらに進み、20年後には生産年齢人口が全人口の6割を下回ってしまう。これからの札幌を活気のある街にしていくことが街づくりの課題となっている。

国土強靱化計画

インフラレジリエンスプログラムと呼ばれる、人口減少等による国民の需要の変化、社会資本の老朽化を踏まえ財政資金を効率的にかつ持続的な実施に配慮して、国の役割の大きさ、影響の大きさと緊急度の観点から回避すべき最悪の事態を選定し取り組むプログラムを使い、地方公共団体や民間とも連携して総合的な政策を実施する計画である。

基本方針は以下のようになっている。

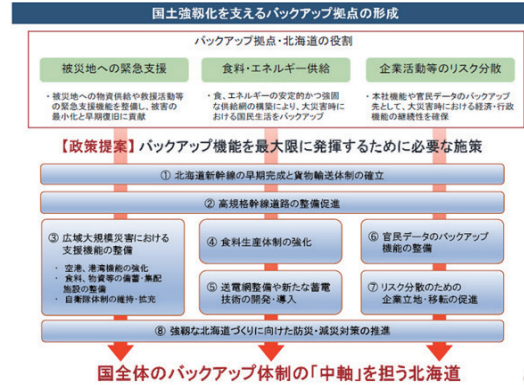
1. 人命の保護が最大限図られること
2. 国家及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること
3. 国民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
4. 迅速な復旧復興

適切な組み合わせ

ソフト政策……ハザードマップの作成・活用、避難訓練の実施
ハード政策……河川・海岸堤防の整備、迅速かつ円滑な避難施設
避難路等の整備

国土強靱化に対する北海道の取り組み

北海道は、北海道の強みを生かして、国土強靱化を支えるバックアップ拠点としてのまちづくりを進めている。その構造は以下の図のようになっている。



私たちは、バックアップ拠点としての役割③、企業活動等のリスク分散に特に着目し、施策の⑦、リスク分散のための企業立地・移転の促進に対して具体的な提案を行う。これについて北海道は現在、企業立地促進のための支援（企業立地促進法に基づく税制措置の拡充、本社機能等移転に対する法人税の優遇措置の導入など）を拡充することで、企業のリスク分散の取組を後押ししている。

道が策定した北海道強靱化計画をもとに札幌市は札幌市強靱化計画を策定した。札幌市強靱化の目標は、

1. 大規模自然災害からの生命・財産及び社会経済機能の保護
2. 北海道の強靱化への貢献
3. 国全体に対するバックアップ機能の発揮
4. 経済活動の活性化、地方創成である。

札幌市の優位性を活かし、企業の本社機能等の立地促進や災害時の企業の業務継続体制の整備を促進することが、札幌市の活性化にもつながると考えた。

路面電車（市電）のループ化と国土強靱化

平成27年12月、札幌市中心部のにぎわいの軸である駅前通りにおいて「西4丁目」停留所と「すすきの」停留所の間に「狸小路」停留所が新設され、さらに路線がループ化された。ループ化区間以外の市電の軌道は道路の中央部であったが、ループ化された「西4丁目」停留所・「狸小路」停留所・「すすきの」停留所間の軌道位置は歩道脇（サイドリザーベーション方式）になった。サイドリザーベーション方式の導入により新しい停留所は歩道からの乗り降りが容易になり利便性が高まった。

また、ループ化以前は市電が終点到着した後に、折り返して発車するまでに全乗客の降車、運転手の移動、全乗客の乗車という一連の動作を行わなければならないので、3分から5分程度の運行間隔が必要であり市電の増便は困難であった。しかしループ化後は折り返して発車する必要がなくなったため、乗客の乗降車に時間がかからなくなり運行間隔の短縮や市電を増便することも可能となった。

路側帯はタクシー乗り場やトラックの荷さばきのスペースとして利用することができなくなったことにより、近隣の東西を走る道路に代替スペースを導入したり、これまで除雪車で雪を道路の脇によせていた冬期の軌道内の雪対策は、ロードヒーティングを用いることになるなど、課題もみられるが、開業1か月後の平成28年1月時点では、路面電車の利用者が平日で10%、休日で16%も増加しており、都心の魅力向上に寄与している。本提案の首都圏のバックアップ機能についても、この路面電車を活用することを考えた。

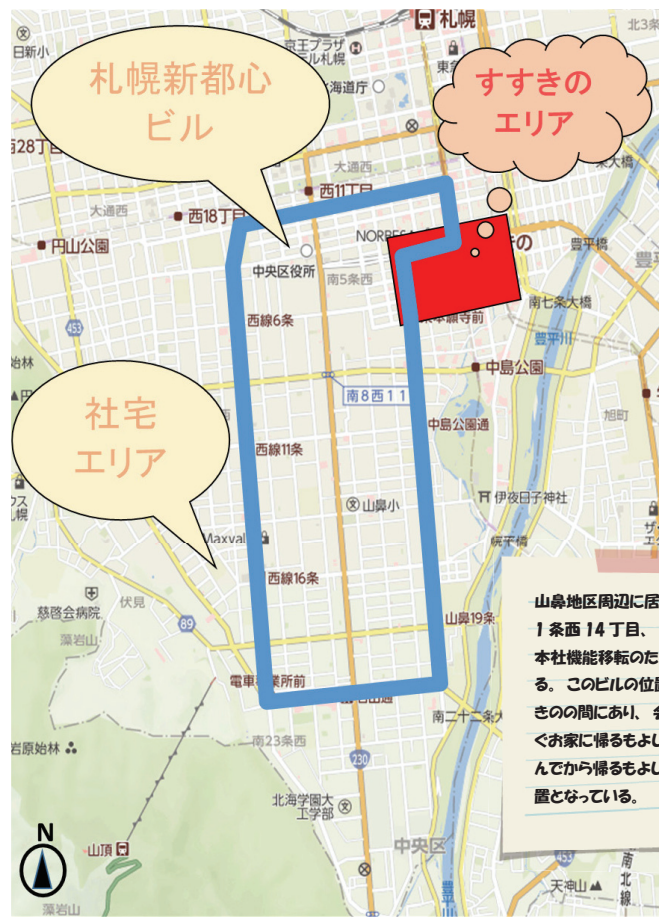
バックアップ拠点への若い世代の定住促進による札幌市の活性化

今後の日本を作っていくのは若者の力である。そこで、私たちは象徴的なビルを建てることで、バックアップ拠点として移転する企業を呼び込み、職場と居住地、すすきのを市電で繋ぐことで回遊性の高い街にし、札幌市を活性化させることにした。企業誘致により、家族連れの若い世代で札幌に転居する人が増え、札幌に住み続けてくれることを期待する。それと同時に、市電のサービスを向上させて、すすきのの活性化と市電の利用率を上げることを考える。



札幌新都心ビル

札幌が新都心として輝くために印象的かつ象徴的な外見は雪との調和を図るためにシルバー主体。企業を誘致するために→五つ星ホテルのデュシタニドバイをイメージ



札幌新都心ビル

すすきのエリア

社宅エリア

山鼻地区周辺に居住地を作る。南1条西14丁目、15丁目に新たに本社機能移転のためのビルを建設する。このビルの位置は住宅地とすすきのの間にあり、会社帰りに真っすぐお家に帰るもよし、すすきので遊んでから帰るもよしというよう配置となっている。

すすきのの地区と連携した路面電車のサービス向上

① テンモクの設置

「若者といえはすすきのでしょ!」という考えのもと、路面電車内に居酒屋と提携したテンモクを設置する。このテンモクは、お店の基本的な情報のみならず、その日のおすすめメニュー、リアルタイムでの空席状況が確認できる。また、最寄りの電停ごとに検索できるなどより地域に密着したシステムとなっている。

② wi-fi 環境の整備

路面電車を利用する人は若者が多い。若者は日ごろ携帯を使いすぎているため速度制限がかかっている人がいる。そのため、wi-fi 環境を整備することは利便性の向上につながる。札幌市は海外からの観光客も多いため、広く活用してもらえないだろうか。



街のイルミネーションを走る「イルミネーション電車」の運行。イルミネーションで彩られた札幌の街を、いつもと違った「イルミネーション電車」に乗りながら楽しめます。



まとめ

昨今の日本では高齢化の進行によりバリアフリーなど高齢者に着目したまちづくりが行われがちである。しかし、これからの未来を作っていくのは若者たちである。その若者たちが主体となって賑わいを生み出すことができる街にしていくことが札幌市をより活気づかせるだろう。